



大村 和人 准教授

【おおむら かずひと】

1976年生まれ。博士（文学）。高校を卒業するまでは英文学と仏文学と中国文学のどの道に進もうかと迷いましたが、大学で様々な人や本と出会い、現在の道に進みました。

●中国語b1・b2・c1・c2

「未熟」な文学？

◎研究テーマについて

私の研究対象は大まかに言えば、「中国古典文学」です。
みなさんは、「中国古典」という言葉を見て、どのような作品を思い浮かべますでしょうか。孔子や老子など先秦時代の思想家の言説でしょうか。『史記』などの歴史書でしょうか。陶淵明・杜甫・李白・白居易らの名詩でしょうか。あるいは、『三国演義』『水滸伝』『西遊記』などの大長編小説でしょうか。
私の研究対象を更に具体的に書きますと、「中国の漢魏晋南北朝隋唐時代（B.C.202～A.D.907）、その中でも特に南朝齊（479-502）梁（502-557）時代の文学作品や文学思想」ということになります。この時代の文学は「中国古典」に対する一般的なイメージからかけ離れたものかもしれません。
齊梁時代に大流行したのは、女性の媚態を主題とした「艶詩」でした。後世の人々は、これらの作品が頹廢的で千篇一律だとして厳しく批判し、そのような作品が量産されたのは、作品制作の担い手であった皇帝・皇族・貴族とその取り巻きたちが頹廢的な生活を送っていたからであり、それらの作品が中国文学の「伝統」から乖離したものだと考えてきました。更に、それらを中国詩歌史における「黄金時代」と評価される唐（618-907）宋（960-1279）時代の作品と比較し、「未熟」「無内容」「無価値」と断定する論調も少なくありません。これらは現在は現在出版されている数多くの『中国文学史』に類する書物に記されており、中国文学史上の「常識」となっているようです。
しかし、仮に「黄金時代」のような時代が過去にあったとして、それを知る現代人の眼でそれ以前の時代の文学を「未熟」と決めつけることは簡単ですが、それはフェアではありません。それぞれの時代に、作者たちは彼らなりにベストを尽くして作品を制作したはず。また、どの国のどのような文学であれ、一世を風靡したものは、突然変異的に発生したものではありません。ましてや、「伝統」を重視する中国ではなおさらです。実際に、上記の「常識」と矛盾する資料は少なからず存在します。
これらのことから、私は齊梁時代の「艶詩」が「伝統」から乖離したのではなく、むしろ「伝統」を受け継いで生まれたものではないかという仮説を立て、作品そのものや、作品制作の場、作者たちの文学思想、そして後世における受容（日本を含む）などの多角的な視点から、齊梁「艶詩」の本質と、その中国および日本の文学史・文化史における役割を再検討しています。

◎担当科目について

「私の授業全般について」
授業中、質問は随時受け付けていますが、各回の授業で小アンケートを実施し、授業の内容や中国のことに対する感想あるいは疑問などを受講生のみなさんに自由にお書きいただき、次の授業の冒頭で質問にお答えしています。

「中国語」

1年次の授業では基礎的な事項を、2年次ではより高度で実用的な事項を受講生のみなさんが身につけることを目指します。言語は、その言語を話す人々のモノの見方がある程度方向づけますが、本授業における文法や語彙の説明では、中国語を母語とする人々のモノの見方にまで踏み込んだお話をします。他に、教科書の内容に即して、中国の習慣や年中行事なども紹介します。

「中国現代文化入門」

この授業では最初に中国近現代文化史や中国の憲法、また中国の国家の仕組みなど、現代中国の文化を理解する上で必要な基礎知識の習得を目指します。その後で文学や音楽、映画などの各トピックを取り上げ、幾つかの資料や先行研究を参照しながら、現代中国の文化と政治・社会との関係における諸問題について考えていきます。

「日中文化比較」

別項の「中国現代文化入門」が主に近現代の中国文化を取り扱うのに対して、この授業では、近代以前の日本と中国の文化事象を取り上げて比較します。日本語と中国語にはそれぞれ「文化」と表記される語が存在します。それらの語の意味には共通点もありますが、相違点も存在します。それは小さいようでいて、実は大きな違いです。中国語における「文化」という単語の特徴的な意味は、中国「文化」の通奏低音となっていると言っても過言ではありません。本授業ではこの問題から脱き起こし、日中文化交流史を概観したあとで、様々なトピックについて資料を参照しながらお話ししていきます。

「中国語」
丁寧に教えてくれたので、とても分かりやすかったです。

(2009年入学)

「中国現代文化入門」
中国の歴史や文化、今まで自分が知らなかった事を多く学び取ることが出来た。

(2006年入学)

「日中文化比較」
日本と中国の違いを学んできましたが、海を隔てただけでこんなにも考え方が違うのかと面白く学びました。

(2007年入学)

受講生のひとこと

